

第14回 高原地区街づくり協議会 議事録(要旨)	
開催日時	令和元年8月22日(木) 18:30~20:10
開催場所	福住公民館 大会議室
出席委員	6名
欠席委員	内田委員、鳥山委員、木村(道仁)委員、植田委員、木村(洋一)委員
事務局	岡本公室長、岩田課長、藤田主査 (関係課) 教育委員会・高山課長、福祉政策課・松田課長、 農林課・森本課長、色雲係長
議事内容	
<p>1. 開 会 -18:30-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 辞令交付</p> <p>新たに就任された福住区長会選出の3委員について、市長より辞令交付。</p> <p>4. 議 事</p> <p>(1)暮らし・子育てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育と校舎活用について <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型小中一貫教育に向けた経緯と概要 ・連続カリキュラム編成、異学年交流による地域教育力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校制度の状況について <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年生1名、二年生2名、三年生3名、五年生5名、六年生1名、計12名の児童が利用。 ・来年度より中学校の特認校制度を開始。1年生を募集する。 <p>会 長</p> <p>現在福住小学校の児童総数が44名、特認校生が12名なので、校区在住の児童は32名だが、そのうち7名は三甲さんのお子様。もちろん校区内にお住まいなので区別する意図はないが、もともとの福住のお子さんというとなら25名になる。その規模になるといろいろと難しくなってくる。今は44名の体制でできている。そうした中で小中一貫校とすることで互いの教員が教えあう中で、福住全体の教育の質を高めようと考えている。現状区長会やPTAにお話させていただいている中では概ね地域のご理解を頂いていると思っているが、校舎の区分けなど細かい点についてはまたこちらで整理して保護者の皆様へも説明していこうと思っている。校区の将来についても大きな意味があると思うが、ご意見やご質問があれば伺いたい。</p>	

委員

こうして進めて頂いているのは大変ありがたい。とにかく子どもが少ないのをどうしたものかと思う。福住は他に比べても急速に少子高齢化が進んでいて、このままではどうなるかと危惧もしている。市長も移住してきてくださったが、他にも来たいと思って来ていただける方がいればと思う。

会長

子育て世代に福住に移ってきてもらったり、他へ出ているお子さんお孫さんに帰ってきてもらうには、学校の有無というのは致命的に重要で、かつそれが充実していて、他の学区の方から見ても魅力的だと思っていただくレベルにもっていくことが大切だと思う。

委員

本当にいい取組だと思っている。これは施設一体型で、中学校を小学校の校舎に移すということだと思うが、それは国でいう義務教育学校という1年生から9年生の扱いなのか、それともこれまで通りの小学校1年生から6年生、中学校1年生から3年生という扱いになるのか。

会長

今考えているのは、小学校は小学校、中学校は中学校で独自の行事やカリキュラムを持つという形。小学校の卒業式がなかったり、修学旅行が無かったり、中学校の入学式が無かったりといった形にすることは考えていない。ただ、中学校の教員が小学校の英語や理科といった専門性の高い授業に関わったり、小学校の先生が中学をサポートするとか、お互いの生徒の情報を綿密に共有して小学校1年生から中学校3年生までどういった形で進めていくかを一緒に考えていくということを目指している。

委員

隣の田原では義務教育学校で1年生から9年生という形で実施している。上下間の取組での切り替えというか、小学校が終わって中学校が始まるという経験は大切だと思うので、そういう意味では1年～6年、1年～3年という方法はいいのではないかと思う。

会長

これは保護者会の中でも出て、小学校6年生の子であれば最高学年としての自覚であるとか、下級生を引っ張っていくとか、そういったことは6年生、7年生という形になると希薄化してしまうという指摘もあり、連携していくという形を検討している。

委員

これは令和3年から小中一貫校になるが、中学校は令和2年から特認校になるということだと思うが、これまで小学校で特認校を利用したが、中学は特認校に上がらずに麓の中学に進学したという例はあるか。

事務局

今年の6年生が初めて対象になる。

会長

せっかく小学校を特認校で来ていただいたのに、受け皿がないので中学で帰らざるを得ないという状況を防ぐため小規模校を拡大する。ただ強制はしないので地元の中学に戻るのも、私学に進むのも自由だ。行きたいのに行けないという状況にはならないようにしたいと考えている。

委員

校長先生はお一人でされるのか。

事務局

今のところ、校長は一人で、教頭を当面二人置く形で考えている。校長を一人にすることで、その分現場の先生を充実させる狙いがある。

委員

完全に9年制にしてしまうと上級生の自覚というのが希薄になってしまうというのは非常に重要なところなので、ある程度は原型を残しつつ接続する形はいいと思う。

会長

また具体化にあたっては皆様方と意見交換をしっかりと進んでいきたいと思っているが、これに伴って議題となるのが、中学校の校舎をどのように活用していくかということ。この点について事務局から。

・福住中学校校舎の活用について

事務局

- ・校舎活用の主旨と今後の動きの概要について説明。

会長

若干の補足をすると、空き家にしないというのは大前提で、ここをどれだけ活性化の拠点にできるかというのが県との中心的なプロジェクトになってくるだろうと言われている。なぜかと言えば、奈良市側では調整区域の指定がないため企業も展開することができる一方、市街化調整区域である福住では地元雇用をといても、地区計画や都市計画をきっちりとしなければなかなか簡単には立地できないという課題がある。何かお店がしたい、オフィスを構えたいというときに既存の建物をうまく活用するというような制限がある中で、中学校という大きな敷地をうまく使えるのであれば非常に大きな事だろうと思う。我々行政も、地元の皆さんも、出来れば今年のうちいろいろな方にお声をかけていただいて、そうした方から自主的に活用のご提案を受けられればと考えている。それらの結果をこの街づくり協議会で共有させていただいて、これならば地元にとってもいいのではないかとこの議論いただいたうえで、市議会の方にもかけていきたいと思う。私も企業さんとお会いするたびにご紹介をさせていただいているが、現状データセンターの方に見に来たいと言っていたり、これまで市でもブランディングのプロデュースでお仕事を頂いている服部さんがいろいろなオフィス等が入るシ

エアオフィスとしてご検討を頂いたりしている。単体で使うとなると大きすぎるかと思うが、例えばカフェだったりなどのご要望を受け止める場所として活用できればと思う。商売として成り立つかといえば、柚之川の青葉仁さんのお店などは平野部の店よりもよほどにぎわっているし、伊賀や名張でもインターから離れていても遠方から車で来られるようなところがたくさんある。情報発信を活用すれば十分不可能ではないという思いを持っている。

もちろん用途変更の手続きや境界の確認などの問題はありますが、それは議会とも相談してきちんと整理をして進めていこうと考えている。立地から言えば市街化調整区域だが、目の前が国道25号線ということもありレストランなどの店舗もできるほか、西念寺に県の指定文化財があり、その半径500m以内であれば宿泊施設を立地することも理論上は可能である。そういった活動の可能性の幅というのはあるので、関心をお持ちの方にぜひとも広くお声かけをいただければと思う。物置にしてしまうというのはあまりにもったいないので、一角なりともご検討を頂ければありがたい。

施設の活用については、今後町から町へでもご案内するが、オープンな形で、広く皆さんから利活用のアイデアを受け付けていきたいと思っている。我々で勝手に決めて、地元に諮らず決めるということはない。まずは街づくり協議会に提案させていただきたいと思いますので、ぜひみなさまよろしく願いいたします。

委員

新潟などでは、テレビショッピングをしている企業が注文の電話を受けるテレフォンセンターなどで学校の跡地を活用していると聞いている。いい活用先をみんなで見つけられればいいのではないかと思う。

会長

できればここで勤められる方がいる、就職先に繋がるということが一番を考えていきたいと思う。

・地域公共交通について

事務局

- ・これまでの地域公共交通の議論の経緯。
- ・路線バスとコミュニティバスを合わせた統合再編案の説明。
- ・コミュニティバスの福住、山田への延伸について。

会長

いったんこの案については福住校区のほうと、関連する山の辺校区、丹波市校区、藤井町の方で説明をさせていただいた。私も福住に暮らして1年で、車を運転できている間は十分暮らしていけるなというのが実感だが、免許を返納してしまうと途端に苦しくなる。今70代でお元気な方も、10年後に同じように運転できるかということを考えれば、今このうちに手を打っ

ていくのが本当に大切になってくる。来年10月を目途に考えていきたいが、これは近畿運輸局に許可を取ったり補助金を申請したりという手間があるので、最速で行ってそのくらいの時期になる。時刻表案もなかなかイメージがつかないかと思うが、現状下山田を最初に出発する形、これは時間帯をどこに合わせているかという、仁興町や苅原町など山の辺校区や藤井町のお子さんが通学バスに使われている通学時間帯に合わせていて、山田から下りたバスがまた上って下りてと一日運行する案になる。できれば5往復、6往復というような声も聞くが、そうすると2台での運行体制になり、予算も倍増することからなかなか難しい。一旦目一杯で4往復、ただ、福住校区の皆さんにとっては運行数が倍になり、料金も安くできるかと思う。別途名阪国道を通っているバスについてはそのままになるので、是非とも実現したいと考えている。なおまだ時間帯の案が～時台となっているのは、説明に何うとご自身のお子さんの通学時間帯、クラブ、帰宅の時間帯などで細かいご要望を伺うことが多く、また、もう少しこちらまで来られないかといったご要望もあって、今調整を行っているためまだ確定には至っていない。これ以外にも別途、山田のお子さんが福住小学校に通学される足と、コスモス分団のお子さんが福住に上って来られる際の足は確保しなければならないので、その辺りも精査している最中だが、一旦は一日2往復、片道800円という現状生活の足としてはあまり現実的ではないところを、我々としても何とか前に進める形で考えている。何かご意見があれば伺いたいが、いかがか。

委員

地域の皆さんが高校へ通われるときは各家庭で送迎されていると思うので、それをバスを使って通学できる形になればいいと思う。

会長

中学生のお子さんのいる親御さんと話をしたときにもお聞きしたが、どこの高校へ通うかによって家を出る時間は違う。概ね7時前後くらいに下に着いていれば大概の学校には間に合うと聞いているが、始発の便は山の辺・丹波市の小学生に合わせているのでこれでは少し遅いのではないかと思う。ただ、下校時間帯の便は使っていただけるかということで、現在調整中です。

おそらく皆様各家庭何回も往復されているのだと思うが、うちも長男を越境通学させている関係で、朝は私が出勤の際に送っていくとしても、少なくとも妻は諸々で2～3往復はしている。それを一つ減らせるだけで大分違うのではないかと思っている。病院でも通学でも、理想を言えば往復だが、デマンド等も活用しながら、片道だけでも利用していただけるようになればと思う。これが将来的にこれではどうにもならないということであれば、以前京丹後の方の取り組みとして紹介した地域内協議会での無償乗合システムなども検討いただきたい。これには実費負担の問題や乗合のコーディネートなどもあることから、地域で主体になってうまくまとめて頂く必要もあり、地元のみなさん自身のそれでもやりたいという思いが重要だ。今はご自身で運転される方が多く、それほど切実に必要性を感じられないかもしれないが、今後しば

らくのことを考えればそういった話も出てくるのではないかと思う。理論上は、例えばお子さんを高校に送っていくAさんがいて、少し離れたところに病院に行きたいBさんがいる。これに乗せていってもらえればいいという話で、昔は人間関係でできていたところかもしれないが、毎回送っていってもらうのも心苦しく気を使うというところ、実費を払うということで少し心のハードルを下げられるということがある。ただ、本当にAさんとBさんの行きたい時間帯が合うかどうかや、今日は誰が移動したいのかということ調整する人がいなければ成り立たない。これが福住校区全体で運用できれば規模としては成立すると思うが、地元の中で協議会を設立してしっかりと進めていく必要があると思う。こちらについてはまずはコミバスの運用をしっかりやっていく中で引き続き情報提供を行っていきたいと思う。

委員

300円の路線バスを、今個々人で送迎している人にどれだけ使ってもらえるかという話だと思う。便も増えて安くなってということならありがたいことだとは思う。

委員

いまのところは車も運転できるので危機感はないが、これからは不安になってくることもあると思う。今のうちに本数の多いバスが走るようになってくれればありがたい。今はいいが、子どもが高校に行っているときは朝晩の送迎に結局3往復くらいはしたように思う。

会長

お子さんが2人3人いらっしやるとタイミングが合わないこともある。うまく2往復で合わせようと思うとなかなか難しい。それが1回でも代替できれば違うのではないかと思う。

・高原地域振興館の活用について

事務局

- ・キッズサロン事業の実施状況。
- ・森のようちえんの活動について説明。
- ・夕涼み会の開催。

会長

徐々に活動が広がってきているかと思う。特に子育て世代の方にはキッズサロンの関係もありよく来ていただいております、ここでのイベントなどにもご参加をいただいている。まだまだ地域の中にもここで何をやっているか知らないという方がいる中で、ぜひともこの施設を活用していければと思う。

委員

幼稚園で愛護会の会長をして以来施設に入る機会もなかったが、なかなかきれいな施設だと感じた。たくさん活用してもらえればいいと思う。

会長

ここでどういったことをしているかをもっと地元の皆さんに広げていくのが大切かと思うので、お力添えを頂ければと思う。

・森のようちえんとの連携について

事務局

- ・森のようちえんとの連携協定の締結について説明
- ・てんり高原マルシェの開催

会 長

山田公民館と民俗資料館横の駐車場が一杯になるほどの来場者があったと聞いている。普段から活動いただいている長滝のほうで、森のようちえんさんの取組を地域がどのように受け止められているかなどございましたらどうぞ。

委 員

はじめは森のようちえんというのは特殊な団体で、自分たちの殻の中に入ってしまうのだろうと思っていた。実際は全く逆で、あちらの方から長滝の住民さんと交流したいということで寺や神社の掃除、地域のイベントへの手伝いなどにも積極的に参加していただいている、年寄りばかりの村としては大変助かっている。

会 長

森のようちえんのお子さんが来られるようになって、雰囲気は何か変わりましたか。

委 員

自分のように外へ出ているとあまりわからないが、家にいることの多いお年寄りの方などは森のようちえんの子どもさんが周辺を歩かれると子どもの声が聞こえるので、ずいぶん久しぶりに村の中が賑やかになったと喜んでおられる。

委 員

山田の田植え体験の時にもたくさん参加いただいて、地域に積極的に馴染んでいただいている。住むということにも意識を持っていただいている方が多く、そうした方に来ていただいて高原地域が元気になっていると思う。

委 員

天理大学の方でも絵本の読み聞かせを毎月1回開いていただいている。10組限定だがリピーターも多く非常に人気がある。これから学生ともコラボしていければ面白いのではないかな。

会 長

今我々の把握している範囲では移住希望は20世帯くらいかと思うが、そのうちどれくらいが森のようちえんさんのグループになるのか。

事務局

空家バンクの登録では今のところ5件ほど。登録されていない方もおられますので。

会 長

また移住定住促進の関連でもお話させていただくかと思いますが、こういった子育て世代の方々に実際に住んでいただくという流れを作っていきたい。今実際に移住して住んでいただいている長滝のお家は映画「二階堂家物語」のロケ地になったところでもある。ロケの時は一過性のもので終わってしまうのではという懸念もあったが、あの時に空き家だったのがロケで使わせていただいたのがこうしてお家を借りて移住されるきっかけにもなったので、我々としても良かったなと思っている。

今後、冬に向けて今閉鎖している下山田のキャンプ場の一部を借りたいというご希望を受けている。市でも9月からの利用に向けて今調整を進めているということなので、お気づきの点など地元でお声がございましたらまたお知らせ頂ければと思う。

委 員

また近々工事などをされるということか。

会 長

いえ、我々も投資をできる状況ではなく、現状のありのままをお貸しする。ありのまま使える範囲の一角を使っただけということになるが、荒れたところの整備も楽しめる団体なので、そこもしっかりやっていただければと思う。

・移動販売事業の報告について

事務局

- ・1月からの利用実績（平均利用者数・売上）をグラフ化して説明
- ・引き続きの周知と利用促進を依頼

会 長

これは公共交通の対策と裏表の部分でもあるが、なかなか店舗を展開するのは難しい中で、身近なところで移動販売を実施している。皆様に周知もしていただき、今のところ安定した売り上げを保っているが、これがずっと続いていくかどうかは皆様に買っていただけるかということにかかってくる。実はあまり使う機会がないというご家庭もあるだろうが、なくなってしまうと再び復活させるのは至難の業になる。今後のことを考えてもぜひ守っていきたい部分だと思うので、区長様方も定期的に、忘れたところに周知喚起を頂ければと思う。もし皆様の生活実感としてお気づきの点などございましたらお伺いしたい。

委 員

お年寄りには助かっているが、強いて言えば会計に時間がかかるという声をよく聞く。

会 長

人員配置の関係上、ドライバーさん一人で運行も会計も行っていることもあり、時間がひっ迫してしまう。ただ、二人体制だと必要経費も増えるため、そこは温かいご理解をいただけれ

ばありがたい。

委員

毎回買いに行かせていただいている。たまにお二人で来ていただけることがあり、その時はやはり早い。いつも少し遅くなるからとゆっくり行ったらお二人の日で思いがけず早く来ていただいていたりました。いろいろなものがあり、新鮮なものもあって、みんな喜んで買っている。

会長

これはまず始まったのは朝和・柳本校区からで、南檜垣では今、コープさんが来るのに合わせて集会所でサロンをしようという話が出ている。

事務局

たくさん場所を回らなければならないと時間が間に合わず、どうしても予定を押してくることがある。販売所に行っている公民館や集会所などを事前に開けて頂いて、そこで皆さん集まって話をしながら待っていただいて、コープさんが来たら買い物をするというような形にできればということで今動いていただいている。

会長

理想を言えばただ待っていただくだけでなく、そこで会合をすとか、みなさんで交流する機会にできれば移動販売の成功事例により近づいていくのではないかと思っている。またご検討を頂ければと思う。

(2) 移住・定住促進について

・高原地区移住対策交流事業

事務局

- ・椽（たるき）～大和高原移住促進プロジェクト in 天理 の活動内容について

委員

空家についてはメンバーの中に配達の仕事をしている方がいて、福住の中をあちこち回っておられるのでここが空いているといった情報を持っている。そこを目掛けて持ち主の方に協力頂けないかとお話をさせてもらっているが、なかなか難しい。賃貸するよりも売りたいという希望が多く、一方買うとなれば入居希望者には大変で、その希望が合わないので交渉がなかなか進まないでいるものもある。

会長

売ってもいいという方は、バンクに登録されている方の中にはいますか。

事務局

いらっしゃいますし、登録されていない方の中にもいらっしゃいます。先日も委員のご紹介で長滝の空き家を見に行かせていただいた。改修は必要だが立派なお宅で、活動の拠点として

一時滞在するのにも使えるのではないかというお話だった。

委員

来年森のようちえんに入って来られる方は7名いらっしゃって、そのうちの何名かは代表の岡本さんがいらっしゃる長滝に住みたいと仰っている。市と森のようちえんの方とで見に行っただが、一件は好きに使ってくれて構わないと言われるが下水道が来ていなかったり水回りの修繕が必要だったりネックになっている。それはまた検討されるということでお話は終わったが、役所はそうしたことに補助金が出ないのか。

会長

南和の方ではそうした改修等に補助金を出しているという自治体もあるが、今現在市では制度を作っていない。

本来は買っていただいた方がより定着していただけるし、改装して自分の好きなように使えるというのがいいと思うのだが、いきなり投資をすることにハードルがある方もいる。森のようちえんの方もそれ以外の方も含め、20世帯くらいの方が今ご検討をいただいているが、その方が来ていただけるかが今後の人口推移やコミュニティに影響が大きい。市としても1件でも2件でも成立をさせたいと思っている。

そこで非常に大切なのが、地元と溶け込んで頂くことだと思う。来られる方も知り合いもない中では不安だろうし、単に空き家を仲立ちするだけでなく、人間関係の仲立ちができればという思いで、移住者の方と地元の有志の方の両方に入っていただく形で椽というプロジェクトを依頼させていただいている。そこから両方をうまく繋いでいくということをお願いできればと思う。

委員

紹介する方が貸し手も安心ができる。森のようちえんの方が住まれるので貸してあげて、具体的に伝えられるので、それはいいと思う。

会長

最初の一步がうまくいった。最初は長滝の皆さんもそれはどこのどんな団体ですか、という印象だったかと思うが。今、協議中になっている件数は。

事務局

コンシェルジュに掲載されているのは山田町の1件、その他独自に動いていただいているのが数件。

会長

先日桜井で県内初の代執行になった事例が新聞に載っていた。今後は空いている家をそのまま置いておくと、衛生面の問題や漏電火災、空き巣等の安全面での問題などもあり、地域にとっても大きな迷惑になる。まめに来られて管理されている物件もあるだろうが、隣家との隙間が空けば空くほど、今住んでいる皆様にとっても不安が増していくと思う。何かあったときにすぐ声をかけられるようなところに、うまく地元と共存しようという方が入っていただけるの

が重要だ。移住者の中島さんなども今実際に消防団にも入っていただいているが、そういう方にたくさん来ていただいた方が、今お住まいの皆様にとっても安心感が増すだろうと思う。住民の皆様も地元からいろんな人が出ていって今空き家だらけだという状況で、外へ出て行かれたお子さんにそろそろ戻ってきたらと声をかけるのと、今いろんな方が来たいと仰っている状況で同じように声をかけるのとでは雲泥の差があると思う。

ただ、これは向こうの引きがあるうちに何とかしたい問題でもあって、福住には探したけれど全然見つからないという状況を放置して、今から何年後かにやっぱり来てくださいという話をしてもう遅い。来たいと仰っている方がいるうちに結び付けていきたいと思う。

福住で口をひらくたびにこの話ばかりで恐縮だが、ぜひよろしくお願ひしたい。

委員

地域の方が温かいということは皆さんわかっていたでいて、こうして会議のたびに空き家がないかという声かけもして頂いて1～2年になる。先ほど市長の話にもあったが、家を借りるにしても人間関係があるのとないのとでは、相手は誰なのかというところからして対応が違ってくると思う。いろいろな方がこの空き家は誰々のだから誰に言えば話が通じるというようなネットワーク作りに協力いただいているというのは聞いているが、これはもう皆様の協力がなければ進まないの、引き続きよろしくお願ひいたします。

会 長

このまちづくり協議会も第14回で、第1回、第2回くらいではどちらかというと少子高齢化が主なテーマで、イベント事ももう少し充実させられないかというところだったのが、今は来たい人を受け入れる枠がないという状況になっている。数年前に、来たい人がたくさんいて、その人たちが住む家がないという話を私が言ったとして、あるいは数年後にそういう状況になるのだと言ったとしても、誰も信じてくれなかったと思う。実際そういう状況になりつつある。

私としては地域の皆さんに自信を持っていただいて、出ていく一方だという空気ではなく、来たい人がそれだけいるエリアなんだということを思っていて、その上でどんどん迎え入れて頂ければと思う。

椽の皆さんのご活躍をお願ひしつつ、またオーナーさんとお話等される際にもできるだけお力添えを頂ければと思う。

事務局

実際に移住されているエリアはまだ限られているが、以前あった周囲の目もあって自分のところだけ他所に貸したり売ったりするのは恥ずかしいというご意見が、こうして少しずつ移住者さんが増えてくることで、貸したり売ったりしてもいいんだという風潮になってくれば、より移住もスムーズにいくのではないかと思う。

委 員

仕事でこのあたりの地域を回るが、だんだん家を手放すという人も増えてきた。ここに管理しに帰るのもかなわんと売買に出される。私が聞くのは古民家再生の関連業者などに売って、

そこから業者が転売するというもので、直接にというのはあまり聞かないが。

会 長

我々も仲介業者さんを否定するつもりは全くないし、それで進めばいい案件もあるが、我々が今進めているのは、顔が見える関係で仲を取り持ってという形なので、より安心感を持っていただけるのではないかと思う。

委 員

市外の話になるが、地域外の方と外国の方のご夫婦が海外でネットで写真を見て、ここで住みたいと帰って来られて入居された事例を聞いた。お金もかなりかけられたのだろうが、そういう魅力ある家というのはあるのだと思う。

会 長

私もやってみましたが、市街で自分で建てるよりもリーズナブルだったかと。土地を買って上物を建ててといったことを考えると、改修費を払ってもまあ妥当かなと。

福住の方は割と豊かな方が多いので、リフォームもしてるし駄目だと思われる方もいらっしゃるが、いろいろな再生案件を見ているとあえて古い風合いを蘇らせたりもしているので、諦める必要はないかと思う。

委 員

古い家の人の思いというものもあるとは思う。私が売ったと、自分の代で売ったとなるのは申し訳ないというような気持ちだったり、愛着だったり。

会 長

手放したという罪悪感ではなく、新しい方に良い形で使っていただいた方が地元のためにもなるという意見が増えてくるとありがたい。よろしく願いいたします。

・農泊推進事業について

事務局

- ・農泊推進事業の経緯と事業概要について
- ・実施主体の活動停止に伴う令和元年度事業活動の取りやめについて
- ・実績報告について

会 長

事業自体はNPO法人様が主体になって国の交付金を受ける便宜上市の農林課が事務局となっていたが、地元区長会様への説明不足もあって、皆様としても何をしているのかがわかりにくい部分があったかと思う。今日ご覧いただいた通り、昨年度一定活動をしていただいたこと、また、実際に活動した分だけ交付を受けるという形になっているので、お金が余っていたりとか、過度に交付を受けられたりといったことはないということをきちんと説明していきたいと思っておりますので、区長会長様はじめまたどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 地域交流事業等

・氷まつり、氷室のふるさと体感ツアー

委員

いつも氷まつり等には市長はじめ校区区長会からもご協力をいただき、無事21回をやり遂げることができました。今回は新しくなった葺き上がった茅葺と、好天気もあって多くの方にお越しいただいた。

また9月の体感ツアーは第3回目、福住をもっと知ってもらいたいということで氷室・福住城跡、西念寺、氷室跡、氷室神社などを巡るツアーを計画している。今日、公民館からの報告では34名が天理駅からバスで、4名が地元から参加していただく予定になっている。上限50人くらい参加いただければいいなと思っているところにうまい具合に集まっていたている。一つでも福住のことを知って頂ければ嬉しいなと思っております。

会長

ありがとうございます。ぜひよろしくをお願いします。

・長滝親子体験クラブ

委員

今年で第4回目になりますが、ネットと電話で募集したところ、日付が変わると同時に100人くらい応募があって、ネットで受付している係のものが、もう一杯だから私の携帯にかかってくる応募の話はみんな断ってくれというほど盛況だった。結局300人ほど応募いただき、こちらも対応できないので先着順で150名ほどに絞って実施させていただいた。大変暑い日だったが、市長様、議長様、市本議員も来ていただいた。森のようちえんのみなさんのお手伝いもあって、うまいことできたと思います。ありがとうございました。

会長

今、氷まつり、氷室のふるさと体感ツアー、長滝親子体験クラブと皆様方の取組をご紹介いただきましたが、こういった素地があってこそ、今、福住への移住希望の方が増えてきたのかなと、流れの礎になっていただいているという風に思っている。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

イベントには市内市外から広くご参加いただいているが、まだ市内にも福住校区に行ったことがないという方がいらっしゃるんですが、こういった機会を利用してご紹介をさせてもらえればと思います。来月の観月会に向けてもご準備を頂いているかと思いますが、そちらもどうぞよろしくお願いいたします。

・活脳教室

事務局

- ・活脳教室の経緯と取組内容について
- ・日頃の取組の様子について
- ・今後の活動予定について

会 長

ありがとうございます。高齢化に伴って要介護1～5に認定理由のトップがすべて認知症ということで、既に認知症の傾向がある方、疑いのある方などいろいろおられるかと思うが、しっかりと取り組んで頂くことで症状が改善したり、健常域を維持できるということがありますので、我々としても継続的に拡大発展をさせて頂きたいと思っている。そのためにも今回参加していただいたみなさんの声というのが大事だと思うので、また校区の皆さんや長寿会のみなさん、民生委員のみなさんにもこの取組を実際に見て頂く機会を作ればと思っているので、またどうぞよろしく願いいたします。

最後に何かございましたらどうぞ。

委 員

福住中学校校舎の利活用事業については天理大学もお声掛けを頂いているが、なかなか大学単体でこれを借りて使うというのも難しいかと思う。地区の方々と一緒に、地域に合う事業を考えていくというような取組に動きはじめていく必要があるのではないかなと思っている。そういった部分に大学が関わらせていただくのは非常にありがたいことだとも思いますので、どうぞまたよろしく願いいたします。

会 長

はい。それでは非常に長時間になりましたが、多岐に渡って今取組が進んでおりますので、引き続きお力添えを賜りますことを願ひまして、今回のまちづくり協議会を閉じさせて頂きたいと思ひます。ありがとうございました。

5. 閉会 - 20:10 -